

見立 天櫃和合神（八世市川團十郎 一世坂東志つか）

中国から渡来した天櫃和合神は、蓄財と男女和合の利益をもたらすと信じられて、幕末期に流行した神である。当代の人気役者であり、舞台上の夫婦役者である二人が、嘉永4年（1831）11月 嘉永5年（1832）10月の間、何故か同座していなかった。そこで、二人の共演を願って、和合神に見立てて豊国がこの絵を描いたものと推定される。